

地域・社会課題の解決に向けた規制・制度改革に 係る石垣市からの提案について ・保安検査員不足の解消

令和6年4月
石垣市

本市が抱える地域・社会課題について

課題：新石垣空港における保安検査員不足

(1) 新石垣空港について

- ・沖縄県内で那覇空港に次いで利用者数が2番目となる新石垣空港は、国内の地方空港の中でも乗降客数が多い空港となっている。平成25(2013)年の開港以来乗降客数は県外客を中心に順調に伸びてきており、新型コロナウイルス感染症の影響がはじまった令和2(2020)年の前年の平成31/令和元(2019)年までの4年間は毎年100万人を超える利用者数を記録。
- ・また、平成29(2017)年4月には、県内で那覇空港に次いで国際交通貨物の輸出入が直接できる「税関空港」に指定。
- ・現在、新石垣空港と定期航空路で直接結ばれている国内の都市は、与那国、宮古、那覇、福岡、名古屋、大阪、東京があり、現在、再開に向け調整しているが、国外ではコロナ禍前では台北、香港となっていた。
- ・新石垣空港施設の旅客ターミナルビルは、国内線及び国際線があり、手狭な点が指摘されていた国際線ターミナルは、令和4(2022)年3月にリニューアルオープン。

本市が抱える地域・社会課題について

(2) 課題について

・本市の抱える課題として、2020年2月を最後に、石垣発着の国際定期便の休止が続いている。原因として、保安検査員不足の影響があり、検査会社が必要な保安検査員を確保できておらず、国内線においても全ての保安検査場の設備（4レーン）が運用できず、保安検査場の混雑が常時発生している状況である。

※コロナ禍前の2019年の空路は約5万人のインバウンド需要があった。

・コロナ禍前に就航していた台湾及び香港便については、昨年、それぞれのエアライン会社（チャイナエアライン及び香港エクスプレス）から運行再開の希望を受け、調整を重ねていたが石垣市側の態勢が不十分であることを理由に再開ができていない状況であり、台湾便については保安検査員等の人員不足を解消し、今年の夏には再開させるべく調整を進めているところ。

・仮に、このような保安検査員不足の状況が改善されなければ、再開の意思を示しているチャイナエアラインとの調整難航や香港エクスプレスにいたっては石垣航路を取りやめる可能性もあり、今後の増便や新規就航が困難となるだけでなく、保安検査場の更なる混雑も懸念される。

本市が抱える地域・社会課題について

(3) 保安検査員の採用状況について

- ・保安検査員については随時募集をしているが、昨年4月からの受付で25人の採用を決めたところ、本来は最低でも40人の雇用者の確保が必要であり、まったく足りていない状況。
- ・加えて、離職率が高く、コロナもあり、ここ数年で62名が離職している。

新石垣空港における混雑の様子



2階の保安検査場前で混雑する様子



1階まで混雑している様子

石垣市からの提案事項①

提案事項：空港における保安検査員配置の要件緩和

提案概要：警備業法に基づく配置基準において、検査レーン毎に空港保安警備業務検定合格者を一定数配置することが規定されているところ、特定の条件化での要件緩和を行う。

提案内容：

空港保安警備業務は警備員等の検定等に関する規則第2条に基づき、空港保安警備業務を行う場所ごとに、1人（空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員）とされており、現在、新石垣空港においては検査レーン毎に空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員を配置しているが、保安検査に支障をきたさない前提で1級検定合格警備員と2級検定合格警備員が相互にフォローする体制を確保する要件で隣接の検査レーンでは、緩和策として1級検定合格警備員1名の配置で可とする。

この相互フォローの体制について、具体的には、乗客の手荷物検査や探知機への移動について交互に進めるようコーディネーターを1名配置し、調整する。その他の1級検定合格警備員等の保安検査員不足への対策を図る。



規制改革の実現・サービスの実装により実現される姿

•新石垣空港では国内線の検査レーンが4つあり、仮に規制改革が実現されれば、通常は保安員不足で2レーンしか開放できないところ、4レーン全て開放でき、混雑緩和が期待できる。

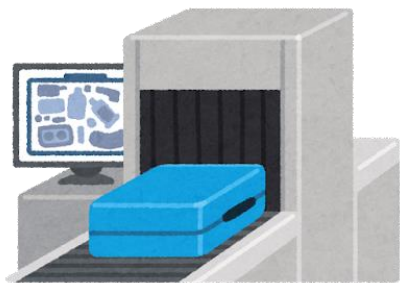
※現状と比較し、2割～3割程度の混雑緩和を想定

•さらに、余剰分を国際線にまわすことで国際定期便の再開に向けた取組を加速化できる。

第1レーン

コーディネーターを配置

2級検定合格警備員

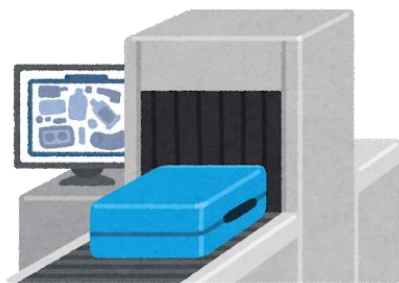


1級検定合格警備員



1級検定合格警備員が交互に監視できる体制構築のため、乗客の動きをコントロールする。具体的には、乗客の手荷物検査や探知機への移動について交互に進めるようコーディネーターを1名配置し、調整する。

第2レーン



2級検定合格警備員



1級検定合格警備員が交互に監視



関係規則：

空港保安警備業務は警備員等の検定等に関する規則第2条に基づき、

- ・空港保安警備業務を行う場所ごとに、1人（空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員）
- ・エックス線透視装置が設置される場所ごとに、1人以上（空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員）

とされており、

「空港保安警備業務を行う場所」の範囲を特定するに当たっては、「手荷物等検査用機械器具」の性能、情報通信技術の利用の状況その他の事情を勘案するものとされており、石垣空港においては検査レーン毎に空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員を配置する必要がある。

このような状況から、検査レーン毎に空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員が2名、あるいは、1級検定合格警備員1名及び2級検定合格警備員1名の合計2名のいずれかで配置をする必要がある。

石垣市からの提案事項②

提案事項：技能実習制度及び特定技能制度の対象拡大（空港保安検査）

提案概要：技能実習制度の移行対象職種および特定技能制度における航空分野の業務に「空港保安検査」を追加する。

提案内容：

技能実習の移行対象業務に「空港保安検査」を追加し、空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員の資格取得を目指す。

※今後創設される育成就労においても同様に「空港保安検査」の職種を追加する。

また、特定技能制度における航空分野の業務について「空港保安検査」を追加し、技能実習によって空港保安警備業務に係る1級検定合格警備員資格を取得した外国人等を対象とする。

なお、1級検定合格警備員の資格取得までの間も保安検査員業務に従事し、適正なスキルを身に着ける。



規制改革の実現・サービスの実装により実現される姿

- 新石垣空港では国内線の検査レーンが4つあり、仮に規制改革が実現されれば、通常は保安員不足で2レーンしか開放できないところ、4レーン全て開放でき、混雑緩和が期待できる。
- さらに、人材不足が解消されることで、国際定期便の再開に向けた取組を加速化できる。